



井藤 朋紀さん
Itou Tomonori

〔上早川二区〕

いとう ともりのり / 甲佐町消防団団長。今年4月に団長に就任し、390人の団員の指揮を執る。コロナ禍の中、地域の自主防災組織などと協力して地域防災力の向上に取り組む。

コロナ禍で試される地域防災力 過去から学び未来に活かす

「昨年7月の豪雨では副団長として、氾濫の危険が迫る竜野川付近の土嚢積みなどの陣頭指揮を執りました。これまでの現場経験を活かしながら団員を引っ張っていければ」と話すのは甲佐町消防団

団長として地域の防災活動の先頭に立つ井藤朋紀さん（上早川二区）。
入団して26年。これまで分団長や副団長を歴任し、この春から団長に就任。本町の安全・安心を守るために団員を

束ね、地域の防災力向上に取り組んでいる。
「新型コロナウイルスの影響により、操法大会や出初式などの取り組みができません。ま1年半が過ぎました。地域住民はもとより団員同士の連携を高める機会が失われる中、消防団が担う地域の防災力をどう維持していくのか。難しい状況だからこそ団結力が試されると感じています」と気

を引き締める井藤さん。
消防団員数の減少も深刻だ。現在、宮内地域在住の一般団員はわずか2人。他の地域を見ても団員数が10人以下の部が全28部のうち6つも存在し、その存続自体が危ぶまれつつある。

「熊本地震前には500人を超えていた団員数も年々減少しています。職場が町外のため日中の消防活動には参加できない団員も少なくありません」と危機感を募らせる。
「消防団OBが多く在籍する地域の自主防災組織などと連携しながら、限られた人員でできることを的確に判断することが求められています。日ごろから地域との連絡を緊密にしながら、できることの限界を理解し、共有しておくことが大切です」と井藤さん。
「大規模災害では、同時多発的に被害が発生します。過去の災害から学ぶことは少なくないはず。過去を知って、雨の季節を乗り切りましょう」と話す井藤さんは甲佐の暮らしを支えるため、地域の課題に挑み続ける。